

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	在宅医療連携拠点事業による被災地釜石の在宅医療連携構築の経過と課題
日時	平成 25 年 3 月 31 日 10 : 10~10 : 20
会場	第 8 会議室
座長	新田クリニック 新田國夫先生
演者	釜石ファミリークリニック 寺田 尚弘先生
企画趣旨	<p>[目的]平成 23 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災により釜石市の医療機関も沿岸部を中心に甚大な被害に見舞われた。釜石市は医療復興のため東京大学高齢社会総合研究機構の提言を受け、医師会の協力のもと在宅医療連携拠点事業に応募した。各職種の代表による協議会や、先行して事業を展開している柏市への視察を行い目的意識の共有化を行った。その上で多職種合同研修会を通して「顔の見える関係」構築のための機会を 2 回創出した。第 1 回目は東大・柏市からの提言・報告と多職種参加のグループワークを行い、2 回目は夕張での取り組み報告と口腔ケアの講演を行った。2 回の研修会での参加者の意識調査を実施し、今後の事業展開の課題に対する解決策の抽出を行い考察した。</p> <p>[方法]多職種合同研修会に参加した 92 名に 14 項目の質問用紙を送り 53 名から回答があった。その回答について検討を行った。</p> <p>[結果]第 1 回目の東大と柏市の提言やグループワークも多職種連携に有効であるとした回答が 80%前後であった。第 2 回は夕張での取り組みと口腔ケアについては 90%以上が役に立ったという回答であった。講習会の頻度は 3-4 カ月に 1 回が 40%の回答であった。これからも多職種合同研修会を続けることで多職種間の連携が実現できるとした回答が 66%あった。</p> <p>[考察]多職種合同研修会は参加者の質問調査より、①柏市・夕張の報告が釜石の独自の在宅医療・介護の思考を形成する参考になった。②グループ・ワークにより多職種間の距離が縮まった。③口腔ケアについては、歯科医療が在宅医療・介護において慢性疾患の予防に重要であることを参加者が認識を新たにした。以上 3 点が挙げられる。</p> <p>問題点としては連携が実現できるかとの問いに 34%の参加者が懐疑的であることである。多職種合同研修会だけでなく、職種別の会合や市民への啓発活動により周囲から在宅医療・介護の必要性を理解してもらう努力が必要と考える。</p>